



NPOで高校生の 夏ボラ体験

“体験”を通じて人を地域を豊かにする
23年目の夏ボラ実施へご支援をお願いします



わたしたちが目指すのは、夏ボラを通じて、高校生がボランティアやNPOをはじめとした地域とのつながりを持ち続け、10年後、20年後先に一緒によりよい社会を創っていくことです。

2003年にはじまったNPOで高校生の夏ボラ体験。当時参加した高校生は、現在40代になります。中には子どもがいて、ボランティアのよさを伝えているという人や、夏ボラをきっかけに進路が明確になり、今も夏ボラで体験した人を支援する仕事に就いているという人もいます。

高校生が実際に体験し、たくさんの大人に出会うことによる可能性の広がりには計りしれません。高校生とNPO、地域がつながる第一歩をぜひ応援してください。

2003年～2019年

過去の参加者の声

3年連続で参加した夏ボラは人生の分岐点となった。大学ではボランティアサークルに入り、その中で知的障害をもつ子どもたちと接する活動をしたことから、現在は養護学校の教諭として働いている。

夏ボラがきっかけで自分でもっと研究がしたいと思い、進学先を選んだ。夏ボラがなかったら何に関心を持って大学に進んでいたんだろうというくらい大きな経験だった。



のべ参加者数

2428名



認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

宮城県仙台市宮城野区榴岡3-11-6
コーポラス島田B-6
TEL:022-791-9323 MAIL:npo@yururu.com

郵便
振替

口座番号：02250-0-43800
加入者名：特定非営利活動法人
杜の伝言板ゆるる

クレジット
決済



一口3,000円で継続的にご支援をいただき賛助会員も募集しています。

- 「認定NPO法人杜の伝言板ゆるる」へのご寄付、賛助会費は、税制優遇の対象となります。 -



2003年から始めた夏ボラは、今年で21回目を迎えました。社会貢献団体かほく「108」クラブと共催し、学校やNPOのご協力、また多くの方からのご支援を受け、開催することができました。今年の高校生たちは何を感じ、夏ボラで何を得たのか？高校生の変化には、数年、十数年先の地域の可能性が詰まっています。今年の夏ボラ事業の成果をぜひご覧ください。

Annual Report



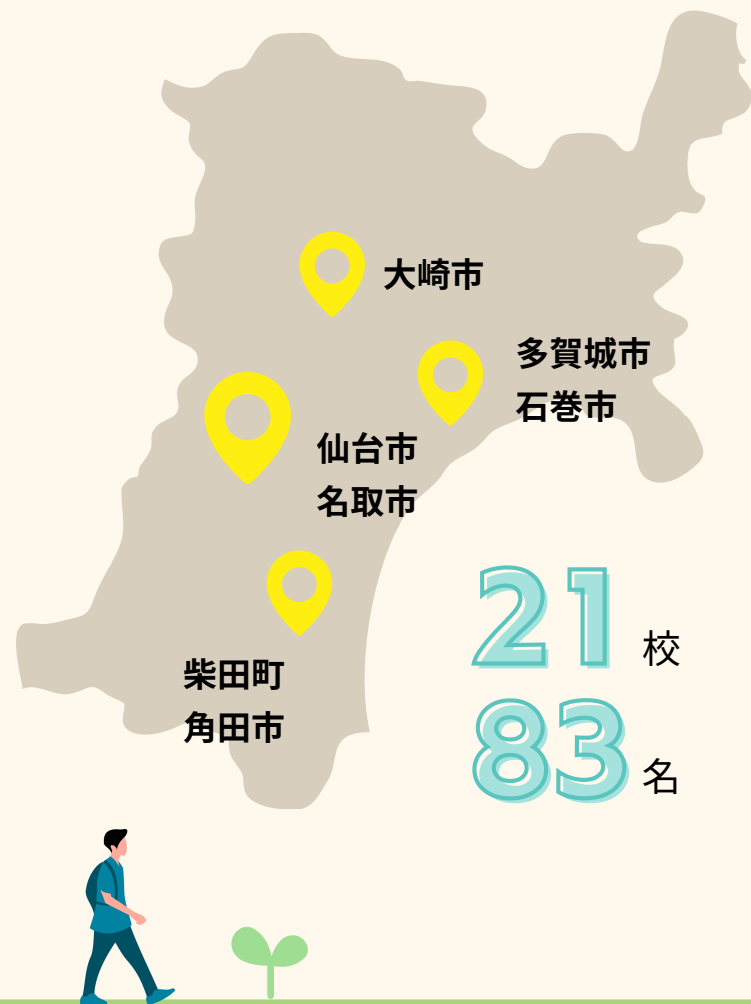
認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

2024年度 開催報告

2024年度は、高校生83名が宮城県内のNPO23団体でボランティア体験をしました。猛暑が続く夏、学校や家庭が中心の生活から夏休みの3日間、地域に飛び出し、ご高齢の方の生活支援を体験したり、障害のある子どもとふれあったり、初めての環境で、NPOでの体験やコミュニケーションから学びを得た3日間になりました。

また、大崎市では、蕪栗沼の環境保全を行うNPO法人蕪栗ぬまっこくらぶが初めて受け入れを行い、地域の高校生にむけて夏ボラの機会を広げることができました。

開催にあたって真如苑様、桐澤洋事務所様、その他多くの皆様よりご寄付をいただきました。御礼申し上げます。



夏ボラは 地域の未来 に向けた “種まき”

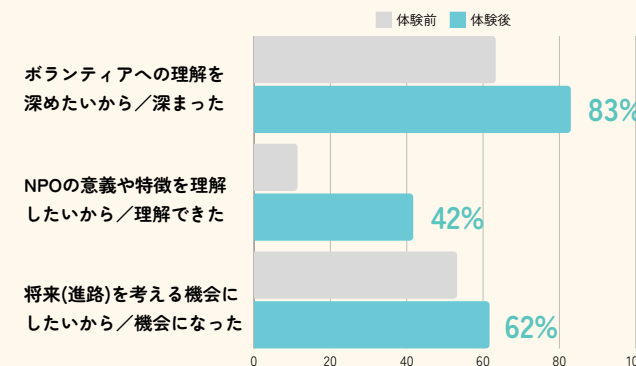
- 01 ボランティアやNPO、地域に関わるきっかけになった
- 02 地域や社会課題の存在がより身近になった
- 03 高校生の価値観や将来的な地域との関わりに良い影響が生まれた

何となく知っている課題が “身近な”地域のことに

高校生への「地域課題」に関する体験前後の質問では、抽象的な言葉がより具体的になった傾向が伺えました。また「NPOは人を助ける存在ではなく『支援する』場所なのだと感じた」などNPOに対するイメージの変化もありました。

体験前	体験後
コミュニケーション不足	障害への理解がなく働ける場所が少ない
観光客が少ない	外国人を対象としたボランティアを増やすべき
地域に若者がいない	若い人にも震災の伝承をしっかりとっていくべき
少子化、人口減少	小さい子どもたちがのびのび遊べる場が少ない

NPOやボランティアへの意識が変わり、将来的な行動の後押しに



体験前後に高校生が夏ボラに期待すること、夏ボラで得たことを聞いた質問では、全ての項目で期待を成果が上回りました。

ボランティアやNPOへの理解が深まり、体験を通じて得た気付きや学びが将来（進路）にも活かせそうと感じた人が多くいました。

また、7割の高校生が「今後もボランティアを続けたい」と回答しており、夏ボラをきっかけに今後もNPO活動やNPOが取り組む課題への関心を持って地域に関わり続けることが期待できます。

夏ボラ卒業生の活躍

2022年、2023年の夏ボラに参加した大学生2名が高校生を応援する側に立ち、夏ボラ運営ボランティアとして関わってくれました!! 夏ボラをきっかけに、今の大学の学科を選んだMさん、そして今もNPOと関わりを持ち続けているAさん。

高校生の社会貢献への関心は高まっている

「夏ボラに応募する前、NPOのことを知っていましたか？」という問いに対し、84.8%の高校生が「知っている／何となく知っている」と回答しました。

また「ニュースで何となく聞いたことがある」と答えた人は6割におよび日常でNPOや社会課題について目にする機会は増えているようです。

たった3日、されど3日。NPOで体験するから得られるもの

※体験談集より一部抜粋

宮城第一高等学校2年 I.Rさん

お菓子作りが好きで、幅広い年齢、障害を持つ方やそうでない方など様々な人と共にパンやクッキー作りをする麦の会で体験をした。

3日間の体験中、親切な人ばかりで安心して作業ができる環境だったが、全てがスムーズにはいかず、作業中に意思疎通が上手くとれないこともあった。そんな時、麦の会の方々を見るとお互いのペースに合わせて配慮し合う姿があった。

思い返すと、高齢者や障害を持つ方と関わる際に『配慮する、される』の関係を無意識に決めていたような気がする。

麦の会では少し違って、TPOに合わせて指揮をとる人が異なり、全員が平等に接していた。この形こそが共生することであり多様性なんだと感じ、とても素敵だと思った。社会でたくさんの人とつながるという経験もできた特別な3日間だった。

